

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 82 号 2020 年夏号

<http://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415

春の生態調査 6月17日(水) 晴れ

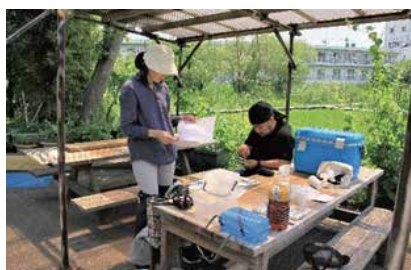
気温 28 度 9:00 ~ 10:15

朝から晴れで爽やかな気候でした。春の生態調査を行い松清さん、高橋さん(女性)、私と3名の参加です。ABゾーンをくまなく回り、生きものを確認しました。蝶類、トンボは多く観察できましたが、鳥類はスズメ、カラス

で普段見られるカルガモやサギなどは飛来していません。

不明なものは図鑑やインターネットで確認し判明です。合計 44 種でした。昨年同時期とほぼ同じです。皆様の環境保全活動によりビオトープは維持されています。

(高橋 紀子、藤平 三郎)



図鑑、ネットで名前確認中



ブチヒゲカメムシ 稲の穂を食べる害虫



ヤナギリリハムシ 柳の葉が好物、交尾中



チャミノガの幼虫 枝に付いたミノムシ



アオスジアゲハ ヤナギハナガサを吸蜜



ヒメギス 湿地のヨシに多くいます



シオカラトンボ(オス)
目が緑色に光っています



キアゲハとヤナギハナガサ

コナギを除草して穂肥の追肥をしました

無農薬栽培で毎年コナギとの戦いですが、今年は私事の都合で早朝草取りができず、会員の皆さんの草取りと「竹クマデ除草」を行いました。また、休日になると雨で、特にうるち田での除草が進みませんでした。7月11日の草取り後に追肥の「穂肥」を田んぼの面積に合わせて計量散布しています。

梅雨明けが遅れ、穂の出も遅れたのでネット張りも遅れました

梅雨の長雨で穂の出（開花）が心配されましたが、「うるち稲」の穂が7月26日、「もち稲」の穂は29日と昨年とほぼ変わらずに出たので一安心です。スズメもこの時とばかりに集まりはじめ、8月15日の盆休みにネットを張りました。35℃の猛暑の中での作業でしたが、多くの会員の参加があり30分ほどで完成です。とても暑くて大変でした。



やっと稲の花（出穂です）が咲きました



猛暑の中でのネット掛け作業



田んぼが深いので草取りも大変です



穂用の追肥（有機肥料）を撒いています

「18歳の棋士」 「パンダ大使の大姉さま」と 「ポケモン」です



今年の案山子は、今話題の棋士・藤井君と黒船を見た？パンダ大使の黒柳さん、ポケモンです。新型コロナ感染防止対策でマウスシールドとマスクを付けています。（小笠原 智）

新型コロナ感染で人間界は大変ですが、 自然は今年も「暑い夏」です



ギンヤンマ



オオスカシバ

「小川ファーム」見学会レポート



7月11日、ビオトープの会員でもある小川幸夫さんが営む農園の見学会を行いました。増尾にある1.5ヘクタールの畑には、多くの種類の作物が育てられていて、小川さんには丁寧に説明をしていただきながら園内を歩き、参加者（16名）は楽しく充実した1時間余りを過ごすことができました。

まず、お宅の玄関先におじゃまをすると、そこにはあたりを飛び交う大量の日本ミツバチたちが…。いくつもの飼育箱が並び、ミツバチは出たり入ったり、忙しそうにしています。



小川さんによると、採蜜はせず、畑の作物の受粉を自然に助けてくれる存在として大切にしているそうです。ハチというイメージもありますが、小川さんはその他にもアシナガバチやスズメバチも畑の害虫を捕食してくれる虫として、共存させているとのこと。農薬に多くを頼らず、営農されている様子に感銘を受けました。

ほか、土壌改良のための堆肥作りをしている一画には、近くの森と行き来しているカブトムシが卵を産みに来るといってお話や、ビニールハウスの奥にビオトープを設置してカエル

が繁殖できるようにしたという逸話を聞き、園内のいたるところで生き物の姿を感じることができました。

作物は時期的に、ナス、オクラ、トマト、ピーマン…など、夏野菜の苗が旺盛に育っているところを見学できましたが、ひと味違うのが、それぞれの品種が同じなのではなく、ナスの色やトマトの大きさが様々なところ。一般的には珍しい品種を次々と育てているそうです。



現代の農業というと、広く単一の作物を栽培し、農薬も欠かせないと耳にしますが、小川ファームでは多くの種類の作物を手がけることで、害虫も益虫も増えたり減ったり、その都度バランスを変え、命をつないでいるようです。

名戸ヶ谷ビオトープでも、年間を通して様々な生き物を目にすることができますが、そこには多くの植物が育ち、稲作をする人間の手も入りながら、生態系が構築されているからこそです。小川ファームは営農される中でそういった生態系を重要視し、今まさに盛んに言われている持続可能な環境が維持されていることを実感することができました。そして何より、そのような農業を好奇心とともに楽しそうに、かつ「声高に言わないで」実行されている小川さんの姿がとても印象的でした。

これからのビオトープでの活動にも、見学会で学んだこと、感じたことを活かしていきたいと思います。
(高橋 紀子)

ビオトープの植物 ミソハギ（禊萩）の花

ビオトープの花の中でもひととき色鮮やかなのがミソハギです。7月から8月にかけて ホタルの観察通路の足もとに群れて咲いています。赤紫色のミソハギの花を見ると故郷のお盆を思い出す人もいらっしゃるでしょう。

禊萩（みそぎ はぎ）の字が表すように古くから祭事に使われてきました。今もお盆の時にはお墓にミソハギを供える風習がみられます。

またミソハギはもともと湿地に育つ植物ですが畑の片隅などに植えている農家もあります。

チョウやハチが蜜を求めてたくさん集まりますので野菜などの受粉の役にも立っているようです。

（山村 和子）



月例活動状況のお知らせ

6月から8月までの月例活動状況をお知らせします。

6月20日(土)

会員 12 名の参加のもと、圃場のコナギの除去作業実施の他、Aゾーン、ヨシ、アメリカセンダン草の除去作業、追肥カリ散布作業等を実施しました。



コナギの除去作業



Aゾーンのヨシ他の刈り取り作業



追肥カリの軽量風景

7月24日(金)

定例活動日は 18 日を予定していたが、雨のため再三延期になりこの日、会員 11 名参加のもと実施しました。活動内容はBゾーンのヨシ、ミントの刈り取り、木村邸前の斜面の雑草の刈り取りをました。その他、木道脇の草刈りや、Aゾーン圃場の畦の除草作業を実施しました。



Bゾーンミント他の除去作業



木道脇の草の刈り取り作業



木村邸前の草刈り後の風景

8月15日(土)

猛暑の中 12 名参加を得て9時前から稲をスズメの被害から防ぐ為のネット張りを行いました。その後ホタル水路周辺の雑草の刈り取り作業を実施しました。(園田 廣満)



ネット張の準備



ネット張り終了後の風景



ホタル水路周辺の雑草の刈り取り作業

新入会員紹介

影山清美 さん（柏市永楽台在住）

はじめまして。昨年私は海外生活の区切りをして 45 年ぶりにふるさと柏市に一時的に帰ってきました。近所を探索していて、ここのビオトープに出会いました。

長い間ここをキープしている会員の皆様に尊敬いたします。

私は柏にいる間は皆様と一緒にここでいろいろとやっていきたいと思っています。

よろしくお願いいたします。



9～11月の活動予定

- 9月
 - 6日 稲刈り
 - 19日 9月定例活動日
 - 19日 生き物観察会
- 10月
 - 上旬 脱穀作業
 - 7日 秋の生態調査
 - 17日 10月定例活動日
- 11月
 - 収穫祭は中止
 - 21日 11月定例活動日

注) 詳細の日時と定例活動の具体的な作業内容等については事前に担当幹事からメールリングにてお知らせします。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約 4,400 m² 湿性生物：57 種 生きもの：161 種（内、千葉県指定保護生物 26 種）

（2013 年、年間を通じて観察した生きものの種類）